

# 安政江戸地震

災害の概要：

発生日時：1855年11月11日（安政二年十月二日）  
夜十時頃

規模：マグニチュード7.0程度

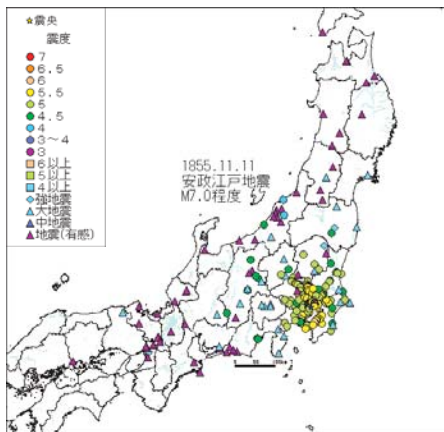
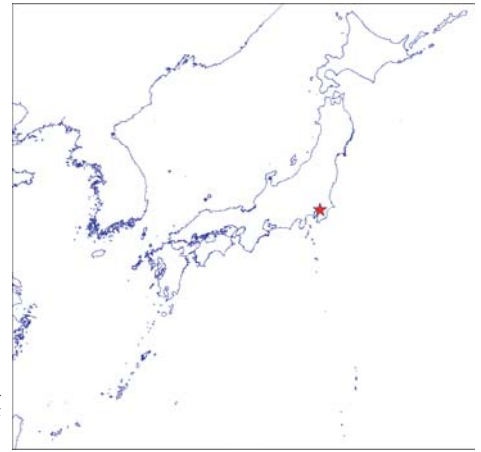
発生場所：東京湾北西部の深さ70km程度

地震の種類：フィリピン海プレートと太平洋プレートとの間に発生したプレート間のやや深い地震

死者数：7千数百人以上

全壊及び焼失家屋：1万4千軒以上

消失面積：1.5平方キロ（東京ドーム32個分）



安政江戸地震は今から153年前の晩秋、風の弱い夜、現在の東京都東部地区を中心に大きい被害を及ぼした地震です。

関東平野は、地震の原因となるプレートの沈み込みが二重に起きている複雑な場所であるため、やや深い大粒の地震が多数発生しますが、この地震も陸のプレートの下に潜りこんでいる、フィリピン海プレートと太平洋プレートとの境目で発生したマグニチュード7程度のやや深い地震です。

図1. 安政江戸地震の震度分布

浅い地震と異なり、中程度の震度の地域が広く、近い所でも大被害が極所集中していない。

震源は東京湾北西縁の千葉市の真下あたりと考えられます。幕末の夜間に発生したのですが、幸い風が弱い晩だったので、火災がさほど広がらず、当時世界有数の過密都市だった江戸の直下の大地震だったにもかかわらず被害が比較的軽くすんだといえます。

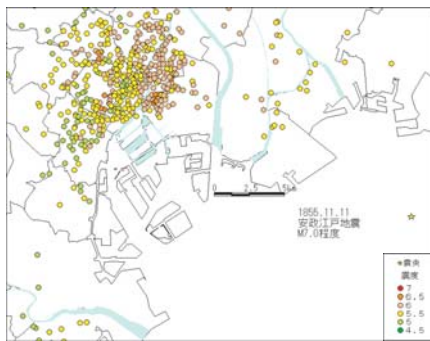


図2. 震央（星印）と江戸の中心部の震度分布

やや深い地震では、震央からの距離よりも、その場所の地盤の質が震度を決める。例えば東京駅の丸の内側は、八重洲側より震度が大きい。



図3. 中世の江戸の姿



図4. 江戸中心部の震度分布

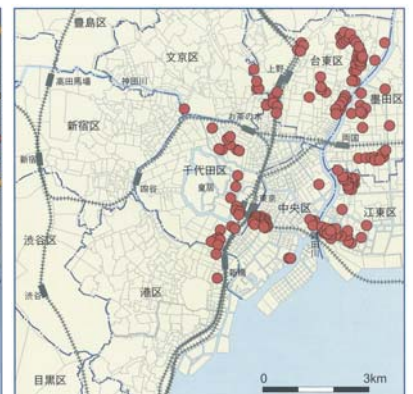


図5. 出火地点分布

震度の大きい場所ほど火災が発生しやすい

家康入府前は、実は都心は湿地帯ともいえる場所でした。これを徳川幕府が埋め立てて、東京湾に流れ込んでいた利根川を銚子に付け替え、さらに明治以降順次海岸沿いを埋め立てて今日の東京となっています。埋め立てられた土地は地震に対しては総じて弱く、備えが必要です。